

自由記入欄への回答

久喜市では、男女共同参画社会の実現に向けて様々な施策を実施しています。ご意見やご要望等を、ご記入ください。

自由記入欄には、154名の方からご意見をいただきました。(回答率17.7%)
以下に、いただいたご意見を抜粋して掲載します。

◆男女平等、男女共同参画について

- ・社会全体に男女平等の意識は高くなっているが、現実としてまだまだ女性の立場は弱い、女性が安心して働ける社会になることが向上につながると思う。保育の充実、職場の理解、給料、支援などが必要。今回の意識調査に参加することで、あらためて、男女共同参画について考える良い機会でした。
- ・男女平等など言っているが、まだまだ昔からの男性の方が優遇、男は仕事、女は家庭という考えが世の中にある為、平等になることはないと思う。女性は損だと思ふ。出産時には仕事を辞めるか休職し戻った時には居場所がないなどは良くある。男性が子育てに協力と言う言葉も、自分の子どもなのだから協力やイクメンなんて言う必要ない。
- ・『男女』や『ジェンダー』などの言葉がなくなり『人』として生きられる社会になって欲しいです。
- ・親によって子どもの将来が決まらない、社会全体でこまかく見守られて、女性にも社会に出て、スタートから男女差別のない、個人個人が、認めあえる社会になって欲しいと思います。
- ・時代の変化により、制度も意識も変えてゆく必要があると思います。コンセンサスを得るのは多様性と一見真逆になるように思えますがこうした調査を幾度なく通じて誰もが生きやすい暮らしやすい社会になって欲しいと心から願います。
- ・男女平等は大切ですが根本には男性の役割女性の役割、又、女らしさ男らしさのふるまいも必要不可欠です。あくまでも基本にそれをふまえた上で男女平等があって欲しいと思います。そこにこそ本当の男女間の思いやりが生まれるのだと思います。
- ・現代、男女平等へという声が多くなり、女性の社会進出が多くあると思います。これは良いことではあると思いますが、子どもを第一に考えるということは、忘れないで頂きたいと思います。それは、親になったという最大の責任です。子どもは体調を崩すものなので、休みやすい環境を男女共に作るべきです。その観点で、男女平等をすすめて頂きたいと思います。
- ・平等と自由には、相反する面があるのでバランス、歩み寄り、妥協が難しいだろう。
- ・男女平等やジェンダーなどは個人の意識も関係するのでなかなか難しい問題だと思います。昔からの考えの固定概念などを少しずつ変えていくことができれば良いと思います。全て男女平等は難しい所もあるので適材適所でその場に応じた役割もあると考えています。
- ・今までの意識男性優位の考えを変えるのはかなり難しいと思います。

- ・男女共同参画社会基本法や埼玉県男女共同参画推進条例が施行されてから20年以上経ちました。各自治体でもそれぞれの条例が施行されながらも女性の社会参画は目立って進んでいるようには思えません。これからも粘り強く社会環境・職場環境、保育サービス等の支援体制、DV対策等の取り組みが進むことを期待しています。候補者男女均等法を受けても2割の候補にも満たない現状では淋しすぎます。3割の目標など先の先のように。孫の世代位には、男女が自分らしい生き方を選び色々な分野に自由に参画し、支えあう生活づくりのできる社会であって欲しいと願っている。
- ・男女共同参画社会、とても良いことだと思います。と同時に人々はお互いの個性を大事にし、尊重しあえることが大事だと思います。私はいつも思うのですが、人は思いやりとやさしさの気持ちがあれば何事も良い事態に向かうのではないかと考えています。
- ・とかく結果の平等（女性の人数を増やすなど）が取り沙汰されるが、重要なのは機会が平等に与えられることだと考える。
- ・平等とは名ばかりの、女性優位な社会を目指さないでほしい。本当に努力をしている人なら男女関わらずに評価される社会が理想です。何でもかんでも女性枠は絶対に必要ない。
- ・男女同参画社会の実現も大切だが、それより少子高齢社会において若者を優遇し出産の奨励に力を入れた方がこれからの社会にとっても大切だと思う。
- ・自立している男性社会、自立している女性社会が共存しているのが理想。生きるために共に働き、共に子育てし、共に家事を分担し、そして人生を共にエンジョイすることです。
- ・女性らしくいたい人、男性らしくいたい人、どちらでもよい人、個々の考えを大切にすることは良いが、あまりにジェンダー等と上げると結婚しない若者も増え少子化になる。多少の男性らしさ、女性らしさ、男性に向いている仕事、女性に向いている仕事もあるので、適材適所も大切だと思う。
- ・昔ながらの考え方、風習も多く男女平等とは言いにくい。違う考えの人へ聞く耳を持ちお互いに理解する必要がある。女性への出産、育児、介護の負担大の現状が問題。女性の仕事へのスキルアップの機会と共に育児への理解・男性の家事・育児への参加のスキルアップ等が重要。子ども時代から男女の違い、他者との違い、ジェンダー知識を教える、考える機会を増やす。どんなに良い政策も周知してもらわないと役に立たない、型、だけでなく実用、“活用”が必須。

◆男女の就業・仕事について

- ・女性は、パートの仕事はあるけど社員になれる仕事が少ないと、母がよく言っています。子どもが小さい時や、長く仕事からはなれていた女性でも頑張ったら社員になれるようになれば良いと思います。
- ・仕事の評価を男女の区別なく実施することが大切だと思います。また、その評価に基づいて男女の区別なく上位ポジションでの職務経験を積みさせることを社会に求めていくことが必要でしょう。性別はその人の個性と考えることを基本とし、一人ひとりの人間としてまず認めてあげては如何

でしょうか。

- ・中堅以上の特に管理職の方の本音と建前に相違があると思うので、そういう人達の考え方を解消しなければ何も変わらないと考える。
- ・フルタイムは、むずかしくても、数時間なら働きたい母はたくさんいます。でも保育園に入れるほどの両立は難しい。パートでもバイトでも子どもを預けて働けたらいいのと思っています。0か100しか選べないのは、生きにくいと感じます。
- ・私の職場は個人経営の小さな職場なので、産休育休も全くとれず、1回辞める事しかできませんでした(またしばらくしてから同じ所で再雇用されました)。事業主の考え方によって育休の取得などは難しいと思いますが、小さい職場でも取得できるような世の中になってほしいです。
- ・保育士の処遇改善、特に給与や働き方改革を行って欲しい。
- ・出産、子育ては働く女性にとっては自分のキャリアを捨てなければならないのが現状だ。働きたい女性は子どもを産まない事を選択し、少子化もはどめがかからない。保育園などを充実させる事は最低限のことで、もう一步進んで子どもが急病で保育園などに預けられない時に、サポートしてくれる体制や人材などを考えてみたらすごく助かると思う。ピンチの時に子どもを預かってもらえる人のいない夫婦はたくさんいる。あれこれ、手を広げて、いろいろな事を充実させようとせず、本当に芯となる問題に焦点をあわせて、ピンポイントで解決していくべきだ。
- ・子どもが体調をくずしたりすると、仕事も早退、欠勤しなくてはならないので、それをフォローできる環境があると良い。
- ・子育て中や介護中でも、就業可能な企業との連携や、支援サービスを充実してほしい。働きたい人と人材を求める企業とのマッチング。
- ・男女平等というのは、女性が就労したところで実現できるものではないと思います。夫婦で助け合い、共同して生活が送れるような支援が必要だと思います。また、日本の正社員は残業が多すぎて、女性が働いたら、家庭生活は成り立たないと思います。
- ・男性が当事者意識を持って家事・育児ができるようになって欲しい。参加、協力という言葉ではなく、家事育児をして欲しい。難しいとは思いますが保育園入園のハードルが高すぎる。もっと入園しやすければ仕事を続ける女性が増えるのでは？

◆女性の社会進出について

- ・女性の社会進出には賛成ですが、役職に一定数の女性を起用すると決めるのではなく、能力評価をした上での起用を進めてほしいと思います。
- ・政治や企業において、女性の人数を決めてから人を選ぶというのは間違っていると思う。性別関係なく、やる気があり適正のある人がやるべきだし、女性だから良いポストに就けるとするのは男性と女性の溝を深めると思う。仕事も家事育児も地域の活動も、性別関係なく、やりたい人が

やれると良い。

- ・女性の割合を何%に義務付け、女性管理職を何割増やす、というのは男性の反対を招くと思う。割合が重要なのではなく、能力のある女性を正當に評価する体制を整えて欲しい。そうすれば自ずと増えていくと思う。管理職や登用を促す側は若者より年配の割合が多い。若者を対象にするのではなく、ご年配に対して男女共同参画の概念を根本から論していくべきだと思う。
- ・施策の立案、決定には男女平等の人数を参加させて行う様にする。
- ・今まで少数だった人を増やすことに尽きるところに。
- ・女性の登用を図るための可視的目標や具体化数値を条例化すること。
- ・女性が働きやすくするのに政策を出すのはよいことだと思うけど、いきすぎたことをすると、今度は逆に男性への配慮がたりないという声があがってしまうと思う。確かに働いている女性にはいろんな面で負担があると思う。でも同じような思いをする男性もいるはずだから女性にばかりフォーカスすることは違うし、よくないと思う。”男女平等”にするはずなのに実際改善すると、女性のために～、女性が生きやすく～という言葉しか見ない。まず一度全て真っさらにして一から考えてみてほしいです。

◆家庭生活について

- ・ワークライフバランスが実現できる社会の構築を望みます。
- ・子どものいる家庭にだけ、家計を助ける制度(割引)とかが優遇されていて悲しい。子どもをもてなかった夫婦に対しても家計を助ける援助もほしい。男女平等より、どんな生き方、家庭環境でも1人1人が平等に優遇されることを重要視してほしい。
- ・家庭は、男女が協力し、子どもを産み、健全に成長させ、社会に送り出していく、人間として重要な場所であるという観点が薄いように感じました。
- ・日本が真の男女共同参画社会の実現に向けて、子育てを男女で行うことが当然であると認識し、共同親権が早期に実現すると良いと思います。
- ・子育ても、働くお母さん達だけが優先ではなくて、働いてないお母さんたちの味方をもう少ししてほしいです。2人目、3人目のお子さんがいて大変、という声も聞いたことがあります。地域との協力も必要ですが...子育ての助けにもなる一時預かり制度かな?...と感じます。

◆地域活動について

- ・地域によってまだまだ偏見や差別が残っていると思う。世代を越えた交流をもっと増やしたらいいのでは。
- ・公共施設や市のイベントなどで、お茶出しや雑務をやっているのは大体女性。PTA本部役員は

ほぼ女性で男性はやっても会長職で雑務は女性で、おかしいと感じています。

◆教育について

- ・私は小さな頃からの教育が大事だと思います。家庭でも学校でもそういう教育をして行く事で男女関係なくだれでも社会活動に参加できる自分の意見が言える世の中になるだろうと思います。
- ・自分に合った生き方ができて、何が自分に合っているかを知り理解して実現できる教育があって社会であればいいと思う。

◆女性の健康支援について

- ・久喜市に産婦人科の病院をつくってください。妊娠中、何かあったときの為に夜間タクシーを使いたいと思いましたが、24時間営業しているところがなくて困りました。今後の妊婦、介護の方の為にでも対策をお願いします。
- ・検診の無料化。
- ・生理の貧困や性搾取から守り、アフターピルの周知や、小中高教育の中に年代に合った性教育を広く取り組んでほしい。

◆DV・相談窓口について

- ・深夜でも相談できるような電話窓口があると良いと思う。
- ・女性への暴力問題の対策は必要。

◆久喜市の取り組みについて

- ・つい先日の報道にて、久喜市のパートナーシップ制度が開始され、さっそく登録された方がいらっしまったことが紹介されていました。久喜市の男女共同参画施策の進展を実感します。これもひとえに男女共同参画審議会を始めとした、地域や行政の弛まぬ努力の積み重ねかと存じます。新しい男女共同参画行動計画で、さらなる一歩が踏み出せるよう期待しております。
- ・久喜市にパートナーシップ宣誓制度があることを知らなかった。
- ・久喜市独自の施策について、今回の調査票を通じて初めて知ることができた。自分宛てで直接届いたため、重要書類なのだな、と感じ、読まなければと義務感を感じた。逆に言えば、このような義務感がなければ読まなかったと思う。とても良い機会だった。一人一人に、この義務感、当事者意識を持たせられるような公示、広報を増やすことが意識向上に繋がるのではないだろうか。

- ・久喜市が様々な施策を実施している事、知りませんでした。活動報告など、若い人は特に紙媒体ではなかなか読まなかったりするので、ネットや駅など、目に留まりやすい所に工夫していただきたいと思います。
- ・このような施策に対し、応援しています。又、市でもいろいろな条例・制度を導入しているのを知り、今後、意識を持って広報を見るつもりです。
- ・久喜市の「男女共同参画」の取り組みについて知らなかった。この機会に久喜市の取り組みについて知ろうと思いました。誰もがその人らしく暮らせる街になるように！
- ・久喜市で行われている施策についてあまり認知されていないように感じる。様々な施策をしているということを市民に理解してもらえるような取り組みが必要だと感じた。
- ・久喜市に住みながら男女共同参画の取り組みが全く知らなかったです。広報等見っていますが、もっと分かりやすいように関心を持てるような取り組みをしてほしいです。私自身も時間があれば、久喜市にもっと興味を持ちたいです。
- ・私は高齢者なので、質問に答えづらいものもありましたが、市をあげて取り組んでいる事は大変良いと思い、期待しています。次世代を働きやすく、暮らしやすい時代にして下さい。
- ・女性が生きやすい市、女性が堂々と町中を歩けるまちづくり。LGBTのみんながかくれる事なく認められ、結婚しているのがあたりまえの久喜市になってほしい。
- ・性別にかかわらず生活できる世界となるよう社会全体で意識改革をしてくなくてはいけないと思います。久喜市は率先してそのような世界を実現できるよう政策を実施していただきたいです。
- ・仕事中心の生活となっており、正直なところ久喜市の取り組みに触れる機会が少ない。広報誌やメールで情報を発信しているのは承知しているが、読むこと自体面倒になってしまう。久喜市民として、久喜市が取り組んでいる施策にもう少し興味を持つべきだと自省しています。
- ・「アンコンシャスバイアス」について学ぶ事で久喜市は幸福度No.1になると期待しています。
- ・夫婦別姓の世の中作りに貢献していただきたいです。
- ・LGBTやジェンダー平等については、最近、いろいろ聞いたりするが、久喜市での取り組みについては全く知らない。そもそも男女共同参画を推進している、さまざまな施策など、全く実感が無いし、知らない。もっと市民にわかりやすく、周知した方が良いと思う。「男女共同参画」という言葉自体がわかりづらい、子どもから老人にまでわかりやすい様なアピールの仕方をした方が良いと思う。